

御法川信英外務大臣政務官の東ティモール及びインドネシア訪問 (概要)

平成20年11月6日

11月1日～3日、御法川外務大臣政務官は、東ティモール民主共和国及びインドネシアを訪問したところ、概要以下のとおり。

1. 東ティモール訪問（11月1日～2日）

東ティモールにおいては、以下のとおり要人との意見交換等の日程を精力的にこなした。要人との間で、東ティモールの発展のために平和の定着が必須であることを確認するとともに、今後の我が国の支援の方向性に関する意見交換を行った。いずれの東ティモール側要人からも、独立以来の一貫した我が国からの支援に対し深い謝意が表明されると共に、安保理非常任理事国となった我が国の国際場裡におけるリーダーシップに対し強い期待が寄せられた。

11月1日

- (1) 1日午後東ティモール入りした御法川政務官は、ディリ郊外の小学校や、王子製紙グループ・王子ネピアの支援でユニセフが実施する衛生プロジェクト（トイレの設置）等を視察し、多くの子どもたち、村民の皆さんと親しく交流を行った。



ディリ郊外の学校視察



王子ネピア・プロジェクト視察
村人から踊りで歓迎

- (2) その後、グスマン首相を表敬した。グスマン首相よりこれまでの日本の支援への深い謝意が表明されると共に、東ティモールの国づくりについての同首相の考え方につき説明があったのに対し、御法川政務官より引き続き積極的に東ティモールの国づくりを支援していく旨述べ等、今後の支援のあり方について意見交換を行った。また、席上、我が国のノンプロ無償資金協力により調達されたカーゴX線機械の引渡が行われた。

(注) 東ティモールで唯一の国際港であるディリ港は、近年貨物の取扱量が飛躍的に増大しており、同機械の導入により税関



グスマン首相への表敬訪問

手続きの迅速化に貢献することが期待されている。

- (3) 次に、カレ国連事務総長特別代表他と会談し、UNMIT（国連東ティモール統合ミッション）の活動について説明を受けると共に、同日着任した川上隆久事務総長副特別代表他日本人職員の更なる活躍への期待が述べられた。また、東ティモールへの国際社会の継続的関与の重要性について意見交換を行い、安保理非常任理事国となる我が国へのリーダーシップへの期待が表明された。



カレ UNMIT 特別代表表敬
(UNMIT 邦人職員と記念撮影)

- (4) 夕刻、東ティモールの国づくりに向けた様々な立場や場所で活躍するODA関係者、UNICEF等国際機関やNGO等で働く東ティモール在住の日本人と懇談を行い、激励した。

11月2日

- (1) 翌2日朝、ディリ港を訪問し、前日引き渡されたカーゴX線機械及び我が国の無償資金協力で改修工事が行われているディリ港の工事現場を視察した。



日本支援のカーゴX線機械視察



日本支援のディリ港改修現場視察

- (2) その後、ラモス・ホルタ大統領を私宅にて表敬し、良好な二国間関係を改めて確認すると共に、安保理非常任理事国となった我が国の国際場裡におけるリーダーシップへの強い期待が表明された。また、人材育成やインフラ開発等、東ティモールの国づくりに向けた中長期的開発課題への政府の取組と、国づくりに向けた我が国の協力について意見交換を行った。



ラモス・ホルタ大統領への表敬訪問

- (3) 続けて、グテーレス副首相を表敬した。グテーレス副首相よりこれまでの日本の支援への深い謝意が表明されると共に、ラモス・ホルタ大統領と同様、国際場裡における我が国のリーダーシップへの期待が述べられた他、両国の協力関係について意見交換を行った。



グテーレス副首相への表敬訪問

- (4) 最後に行われたダ・コスタ外務大臣との会談では、ダ・シルバ・インフラ大臣、サビノ農水大臣も同席し、二国間関係および東ティモールの国づくりに向けた協力について意見交換を行った。ダ・コスタ外務大臣から我が国の支援への感謝が述べられた他、御法川務官より引き続き積極的に東ティモールの国づくりを支援していく旨述べる等、今後の支援のあり方及び国際場裡における協力についても意見交換を行った。



ダ・コスタ外務大臣との会談
(ダ・シルバ・インフラ大臣、
サビノ農水大臣同席)

2. インドネシア訪問（11月2日～3日）

インドネシアにおいては、日インドネシア50周年記念セミナーへの出席、エキスポ（インドネシア・日本博覧会2008）の視察および要人との意見交換を行った。

- (1) 3日午前、御法川大臣政務官は、日本・インドネシア国交樹立50周年を記念してジャカルタで開催された「日・インドネシア50周年記念セミナー」（主催：在インドネシア日本国大使館）においてオープニング・スピーチを行った。両国の有識者多数が出席する中、御法川大臣政務官は同スピーチにおいて、これまでの50年間の両国友好の歩みを振り返り、インドネシアは過去50年間一貫して日本の友人であったと言え、日本もあらゆる局面においてインドネシアの国家建設に対する不断の協力を惜しまなかったと言える旨強調、また、本年7月の日本・インドネシア経済連携協定（EPA）の発効により、二国間の貿易・投資をはじめとする経済関係が一層強化されることに期待を表明、さらに、将来に向けての展望と二国間の協力に関



セミナーでのスピーチ

して、ASEANの地域統合や青少年交流の活発化などに触れ、最後に喫緊の課題である世界的な金融危機に対してもインドネシアとも協調して、難局を乗り越えていく努力を行い、両国が共に歩み、共に繁栄する平和な未来を一緒に作り上げていきたいと述べてスピーチを締めくくった。

- (2) その後、御法川大臣政務官はインドネシア・日本博覧会を視察した。同博覧会は、新たな半世紀に向けて両国の相互理解・交流を深めるため、多数の企業、政府・政府関係機関、民間諸団体等がハイテク、ポップカルチャー、環境保全等の種々のテーマで展示等を行い、日本インドネシア友好年事業として11月1日から9日まで開催されたものである。

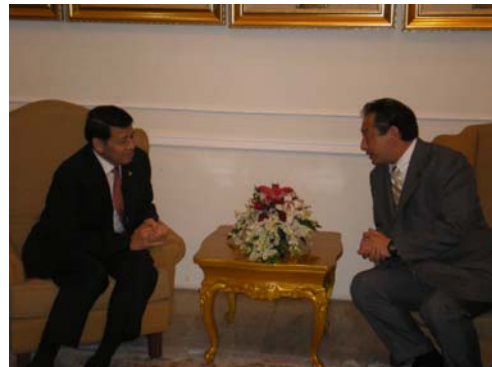


博覧会視察

- (3) 3日午後、御法川大臣政務官はギナンジャール地方代表議会議長（インドネシア日本友好連盟会長）と会談を行い、良好な二国間関係、インドネシアにおける二院制の重要性、インドネシアの民主化等に関して意見交換を行った。続いて、3日夕、御法川大臣政務官はハッサン外務大臣と会談を行い、アジアの親密な友人としての二国間関係、インドネシアとの経済連携協定の円滑な実施、バリ民主主義フォーラム等に関して意見交換を行った。



ギナンジャール地方代表議会議長との会談



ハッサン外相との会談

(了)